

二小の風

学校通信

令和 2年1月7日

1月号

天理市立二階堂小学校

文責 北野 博康

<http://academic1.plala.or.jp/nisyo/>



あけまして おめでとう ございます — 今年の変革の年に! —

穏やかな気候の中、令和になって最初の新年を迎えました。

旧年中は、本校の教育活動にご支援、ご協力をいただき、ありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願ひします。



さて、今年、東京オリンピック・パラリンピックの年であり、おそらく国中がそのことで盛り上がることでしょう。そして、学校にとっても新しい学習指導要領（学校教育の方向性や指導内容や指導時間を示したもの）が4月より全面実施されます。すでに移行期に入っており、少しずつ実施していますが、道徳が教科となり、高学年では教科としての外国語となり、内容がより高度となります。また、これまで高学年で行っていた外国語活動が中学年に下りてきます。それに伴い、授業時間数も増え、6時間授業の日がさらに増えます。さらに、論理的思考を高めるためのプログラミング教育も導入されます。パソコンを使ったICT教育もさらに進められ

ます。

そして、学校がコミュニティスクールになり、学校の教育目標を地域や保護者の方にご承認していただき、学校の役割、地域の役割、家庭の役割を明確にして、同じ方向を向いて教育を進めていくこととなります。

今年、小学校にとっては大きく変わる年になるのです。4月までにしっかりと準備を進めておきたいと考えています。

3学期は次の学年への準備期間

2学期末は、インフルエンザの感染者が増え、1年を学年閉鎖するなど、終業式はたくさんの欠席者がある中で行いましたが、年が明け、少しインフルエンザも落ち着いたのか、3学期の始業式は、ほぼ欠席者なしでスタートすることができました。

いよいよ学年の仕上げの学期がスタートしました。6年生にとっては、3学期は、小学校生活最後の学期となり、中学生になるための準備期間となります。登校できる日は50日しかありませんが、もうひとがんばりして、みんなが自信をつけて、中学校へ進学してほしいと思います。これからますます何をするにも、「小学校生活最後の〇〇〇」という思いが強くなると思います。

また、在校生にとっても、次の学年に向けて準備をする期間です。特に5年生は、最高学年の心構えを作る時期で、しっかりと6年生からバトンを受け継いでいてもらいたいです。

昔から『一年の計は元旦にあり』と言われていますが、何かを始めようとするには、新年の幕開けから始めていきたいものです。

冬休みに私から宿題として出しておいた新年の目標を立てて、しっかりと取り組んでほしいと思います。



「子年」—できることを増やそう—

今年の干支は、最初に戻って「子年」（ねずみ年）です。

「子」という字には、「増える」という意味があり、ねずみはたくさんの子どもを産むので、「子」の字を充て、子孫繁栄を願ったとのこと。

今年、できることをいっぱい増やしたいものです。



手作り注連縄づくり-3年生-

3学期に昔のくらしを学習する3年生が、冬休み前にゲストティーチャーをお招きして、手作り注連縄（しめなわ）リースづくりに挑戦しました。

用意していただいたもち藁を3人一組になって、ねじりながら縄をなっていました。そして、それを丸く輪にしたところへ縁起物の飾り物をつけて完成です。

おそらく3年生のご家庭では、その注連縄を飾って新年を迎えたことでしょう。



